

神小だより

第2号

令和6年5月2日



学校教育目標「夢と志にあふれ、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる」

「夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る・・・」、5月2日は立春から数えて88日目。「茶摘」の季節を迎えました。深みのあるお茶を作るための製法工程を、教育や子育てに照らし合わせ考えると、「真心を込めて。機会をとらえてその時その瞬間を大切に。粘り強く、根気強く、繰り返し・・・。」など大切にしなければならないことがたくさんあることに気付かされます。社会は日々変化し、子供たちもその社会の中で力強く自立していかなければなりません。

総会で学校経営についてご説明しましたとおり、「学校教育目標」を踏まえ「子どもたちの将来を見据えた教育」の実現を図るために、本校の特色を最大限に生かし「神領でしかできない教育活動」の充実に、一生懸命努めてまいります。今後とも本校教育へのご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

1年生を迎える会を実施しました。

4月24日(水)、「1年生を迎える会」が開かれました。まず、私が感心したのは、体育館に集まる子供たちの様子です。どの学年も整列して無言で移動していました。これが神小の伝統。感動しました!これまでの指導の継続で、神領小学校では、この姿が当たり前となっています。しかし、この「当たり前のことが当たり前ができる」ということが、実は大変に難しく、どれほど素晴らしいことなのか。開催前の子供たちの姿から、「1年生を歓迎しよう」という強い気持ちが伝わってくるとともに、会は成功すると確信しました。

凡事徹底できる『プロ』を極めてほしいです。



上級生の温かな拍手の中、6年生と手をつないで入場するうれしそうでもあり少しはにかんだ1年生の姿がとても印象的でした。

6年生が日常の生活を劇にして、学校を紹介したり学習のルールを伝えたりしました。目をキラキラさせながら聞き入る1年生の姿がとても眩しかったです。



全校児童でゲームをして楽しみました。最後に、6年生から手作りのプレゼントを首にかけてもらい、1年生はとてもうれしそうでした。1年生を温かく迎えようとする2年生以上の子供たちの温かく優しい気持ちが伝わるすてきな会となりました。企画・運営は6年生。最高学年として立派に務めました。本当に頼りになる自慢の6年生です。

今世界の人口は81億1900万人(2023年度の80億4500万人より7400万人増(世界人口白書2024より))といわれています。その中で生涯をかけて出会える人は、ほんの一握りです。そう考えると、14名の1年生にこの神山・神領で出会えたことは奇跡です。かけがえのない出会いです。だからこそ、子供たちには出会った人、これから出会う人を大切にしてほしいです。



大勢の上級生の前でも、堂々と発表しました。頼もしい限りです。



1年生は、自分の好きなものの話をしながら自己紹介をしました。

好きな動物は…
好きなおすしは…
好きな国は…

上級生はその発表を真剣に聞き入っていました。



PTA授業参観・総会、お世話になりました。

4月26日(金)、今年度初めての授業参観。平日のご多用の中にもかかわらず、たくさんの保護者の方にご参観いただき、ありがとうございました。張り切って授業に臨む子供たちを温かい眼差しで見守っていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、授業参観や様々な学校行事が、子供たちの成長を感じていただける機会にできるよう、創意工夫に努めてまいります。次回の参観日も、ぜひご参観いただけますよう、よろしくお願いいたします。皆様のご来校をお待ちしています。

授業参観に続きPTA総会でも、本当にたくさんの方々に参加いただき、感謝の言葉が尽きません。保護者の皆様に、教職員やPTA新旧役員の皆様の紹介、学校経営説明等が行うことができ、また私にとりましても校長としての考えを聞いていただける貴重な場となりました。

今年度のPTA活動について承認をいただきました。子供たちの健全な成長とこれからの時代を見据えたよりよい教育ならびにPTA活動のために、笹川PTA会長様をはじめ役員の皆様、会員の皆様とともに、一步一步進めていきたいと考えます。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

森下PTA前会長様をはじめ令和5年度の役員の皆様、これまでのご支援とご協力誠にありがとうございました。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

1年生 小学校での初めての参観日



人生100年時代 読書の力で「夢と志」を実現する

めざす子ども像Ⅱ「学んだことを活かし、積極的に表現する子」を育てる

「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして何よりも、読書をとおして宝を毎日味わうことができるのだ。」これはウォルト・ディズニーの言葉です。ウォルト・ディズニーは、ディズニー作品を取り扱った世界最大のテーマパーク「ディズニーランド」の創立や、世界中から愛されているキャラクター「ミッキーマウス」の生みの親で、世界中の子供たちに多大なる影響を与えた人物として知られています。

ディズニーが、後世の人々にこの言葉を残しているように、読書は人生を豊かにします。

読書をしていると、習っていない漢字や知らない言葉が多く出てきます。その時、「読めない、わからない」で終わらすのではなく、そうした言葉などを調べることで、知識が身に付くと同時に自然に語彙力が付きます。

また、読書をとおして、日本独自の言い回しや日本固有の大和言葉、ひとつの単語から様々なことが想像できる表現豊かな日本語と出会うことができます。「伝えたい表現があるのにうまく言葉にできない…」と悩んでいたことが、読書で出会った言葉により、より豊かな表現力が身に付き、解決することができます。



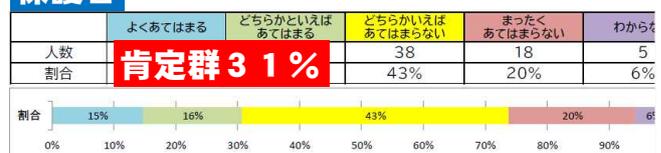
昨年度の子供による読み聞かせの様子
今年度はボランティアによる読み聞かせの充実を図ります

家で読書を一日10分以上している

児童



保護者



令和5年度学校評価より

読書をとおして、語彙力や表現力等を確実に身に付けていくためには、ご家庭との連携が不可欠です。

本校のめざす子ども像の一つでもある「学んだことを活かし、積極的に表現する子」を達成するために、表現力の素地となる語彙量や読書習慣について、改善すべき最重点事項として指導改善を図っていきます。1日10分間の読書はもとより、学校でも「低学年40冊、中学年30冊、高学年20冊」を設定し、読書を推進していきます。ご家庭におかれましても、このことをご理解いただき、家庭読書の推進にご協力くださいますようお願いいたします。